

「人生に幸あれ」

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆さまにおかれましては、お子様のご卒業を心よりお慶び申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、中央高校での学校生活はいかがでしたか。

令和2年冬からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、日常生活においては、外出自粛、マスク着用や手指消毒の実行など、閉塞感のある生活を余儀なくされました。学校生活においては、感染のためやむなく受講できなかった授業の補充や、式や行事の簡素化・短縮化等により、当初思い描いていたのとは違った学校生活を送らざるを得なかった人も多かったと思います。

世界に目を転じてみれば、ロシアによるウクライナ侵攻が大きな負の影響を及ぼしています。ロシアが、西隣りのウクライナに攻め込こんだのは令和4年2月のことです。子どもを含む多くの人の命を奪い、将来や夢、平穏な生活を奪い、街を壊しても、いまだ戦争は終わっていません。

このような予測不能で先の見えない時代に対し、私はことあるごとに

「well-being（ウェルビーイング）」を話してきました。通常「幸せ」と訳されることが多いですが、幸せより拡張性の高い概念です。「今の」幸せではなく「これからの」幸せ、「自分だけの」幸せではなく「皆の」幸せというように、自分を中心に置きながらも人間関係的・時間及び世代的に、より広く幸せのあり方を考える概念です。次世代そして未来に向けて、学校、地域、社会、さらには地球規模での「幸せ」を考えていくことが必要になります。

皆さんの卒業に際し、映画『独裁者』（監督・脚本 チャールズ・チャップリン）のラストシーンの演説の一節を贈ります。

「みんな、助け合って生きていきたいんです。それが人間というものです。お互いの幸せに寄り添って生きていきたい。人の不幸を喜びたくもないし、憎しみ合ったり馬鹿にし合ったりなんて、ごめんです。この世界には、みんなが暮らせるだけの場所があります。大地は豊かで、私たち全員に恵みをもたらしてくれるのですから。」

この言葉をよくかみしめて、皆さんが卒業後の豊かな人生を送ることを願ってやみません。

名古屋市立中央高等学校
校長 山口 大二